

(三) 政治部

(イ) 政治的危機の激成と無産政黨運動

過ぐる一年間は、滿洲事變を機軸として、日本の資本主義の一切の矛盾が集中的に爆發し、激成され、かゝる客觀的情勢の變動は一面に於ては、資本家階級の政治的支配それ自體の危機として鋭く表現され、他方又その必然的影響は無産階級の政治運動にも著しい變化を與へた。資本家階級の政治的支配の動搖の傾向は、濱口首相、井上蔵相、團琢磨、犬養首相等の一連の暗殺事件に現はれた白色テロと及び又資本主義の政治的支配群(軍部、官僚、既成政黨)の間に於ける對立階級の激化の事實に於て明瞭に現はれてゐる。明らかにそれは「日本資本主義それ自體の經濟的危機を反映するところの政治不安」である。而して、かくの如き資本家階級の政治的支配の動搖混濁は、一面に於ては我等無産階級の政治的躍進のための最も好き條件たるべきものであるが、現在なほ政治的勢力の微弱なる我國の無産階級の解放闘争は、むしろ反對に、この動搖期に際して著るしく反動化せるブルジョア政治の彈壓の下に、一層苦難なる立場に置かれざるを得なかつた。更に又、未だ尙ほ日蓮無産政黨運動は、その内部に包含せる幾多の矛盾をこの苦難を通じて清算せねばならなかつた。その一は分裂せる無産階級政治組織の整備統一であり、その二は不合理なる分裂状態と未熟なる連連の必然的結果として

て是を是とし非を非としてこの間に善處し、常に黨の決定に動しては協力することを情しなかつた。従つて選挙闘争、東北鐵道經濟運動、樺太選挙闘争その他の日常闘争に於ても、常に協力黨と協力し、具體的には黨本部の労働委員會を通じて黨との連絡協力のために努力したものである。

(ハ) 選挙闘争

1、總選挙闘争(昭和七年二月) 若槻内閣の後をうけた犬養政党内閣によつて第六十議會は一月二十一日解散され二月廿日普選第三回の總選挙が行はれた。云ふまでもなく我が同輩は、全國労働大衆黨と協力し極力選挙闘争に努力した。然るに今回の總選挙は、犬養内閣の景氣回復宣傳や滿洲並に上海事件に伴ふ戦争熱の煽動等の毒情の下に、無産政黨にとつては極めて不利な條件の下に戦はれたのである。従つてこれをその戦績より見るならば、無産政黨全體としては従來の五名を維持し得たとは云へ従來に比して立候補者の少数であつたこと、得票總數が著るしく減少せること等に於て見る如く決して数字的には進歩しなかつたといふことが出来る。だが然し、上述の如き特殊な困難の下に於て戦はれた選挙闘争としては、その内容に於て決して従來の結果に劣るものでなく、我國の無産政黨も既に確固たる政治勢力を築き得たことを立證するものである。全國労働大衆黨の戦績は左の通りである。

内部に包含され來つたところの各種の非階級的傾向を批判克服することである。

かくて、外にはブルジョア政治の反動と戦ひ、内にはその被害と矛盾との克服のために戦はねばならなかつたところの日本の無産政黨運動は、勢ひその日常闘争に於ては活潑さを缺き、一見政治運動不振の觀を呈したであつた。

だが、全國労働大衆黨の昭和六年度大會が日本に於ては「無産階級陣營に於ける主體勢力の未成熟なるが故に階級對立に於ける政治的危機はない」と斷定主體勢力の強化を急務とするは正しいのであり、その後における各種の事情の急變なる變化は、遂に我等が多年要望せる單一無産政黨社會大衆黨の成立を見るに至り茲に我國の無産政黨運動も分裂時代を清算し、没落の危機に瀕せるブルジョア支配権力との闘争に直進すべき基礎を築いたものと云ふことが出来る。

全國労働は右の如き一般政治情勢の變化に應じて、一貫せる同盟の政治方針をもつて、常に勢力的に闘争し來つたものである。次にその大要を報告して置く。

(ロ) 全國労働大衆黨との協力

日本労働クラブ問題を中心として全國労働大衆黨支持の労働組合の間に於て意見の對立を生じ、これが又黨の問題として討論されたことは別項報告の通りであるが、一時この問題に關聯して黨と我が同盟とが對立關係に置かれてゐるが如き逆宣傳さへ行はれた。然し乍ら我等は、常に黨支持の態度をもつ

候補者スローガン

- 一、ブルジョア階級の倒産!
 - 二、國兵餓死救済の國家永久生活補償!
 - 三、帝國主義戦争絶對反對!
 - 四、言論集結絶對反對!
 - 五、没落資本主義の打倒!
 - 六、ファッショ反動の粉碎!
 - 七、物價の上げ反對、賃銀俸給の引上げ!
 - 八、小作料減免、納税發還、借金措置令の制定!
- 候補者得票並に當選 (○は當選 △は次點)

淺沼稻次郎	四、四五九
藤生久	一五、六〇九
松谷與二郎	一九、三一九
金井芳次	九、五〇六
大矢省三	五、八六〇
田萬海臣	一〇、八四七
杉山元治郎	一八、五一〇
河上丈太郎	一三、二三〇
泉國三郎	九、八一二
三宅正一	六、九〇五
水谷長三郎	五、四〇五
淺原健三	一三、六七七
古市春彦	一、三九六

尙ほ、今回の總選挙に際しては、日本労働クラブ第四回懇談會に於て、クラブ加盟團體は夫々の支持政黨を通じて選挙